



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報創刊号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

1999年1月31日号, No.1

創刊号の目次

1. 設立にあたって ~神奈川R B代表挨拶~
2. 神奈川R B設立総会報告(1999/1/10)
3. 設立総会記念講演会報告(1999/1/10)
4. 1月の各イベント参加レポート
 - 防災ギャザリング99 from かながわ(1999/1/10~24)
 - 直下型地震シミュレーション訓練(1999/1/16)
 - 川崎冬季災害訓練(1999/1/17)
 - シンポジウム(1999/1/23)
 - 「災害ボランティアの交流とネットワークをめざして」
 - 泉区災害ボランティアシミュレーション(1999/1/24)
 - フリーマーケット(1999/1/23~24)
 - 大和市民体験フェア(1999/1/16~17)
5. いり2のコラムVol.1
6. 創刊にあたり / お問い合わせは

設立にあたって

神奈川R B代表 山田泰



「震災時 バイクで役に立ちたい」

これが私達のキーワードです。

1997年7月より約1年半にわたり準備をして参りましたが、このたび神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク(神奈川R B)として設立総会を開催するに至りました。

この1年半 私達は試行錯誤を重ねてきました。特にメンバーの気持ちのベクトルを合わせること、ボランティアとは何か?を理解することの難しさを味わって来ました。

しかし私達は多くのボランティアの方々との交流が出来、我々だけでは到底得られない知識と実践の場を提供頂きました。

おかげさまで今、自信を持ってスタートできるようになりました。

神奈川R Bは「各自がやりたいことをやる」ボトムアップで運営しています。今後もこのスタイルを継続し災害ボランティアとして必要な、何時、誰が、何処でリーダーになってもやってゆける人材が育つのに適した環境を維持したいと思います。

設立1年目の今年は自らのスキルアップそして各団体との連携により

- ・震災時活動の研究(活動計画策定、実践訓練)
- ・(災害)弱者の理解

を中心に活動していきたいと考えています。

今後とも神奈川R Bに対してご協力の程よろしくお願い致します。

1/10 神奈川R B設立総会報告



1999年1月10日、かながわ県民センター3階301会議室において、神奈川R B設立総会が開催されました。当日は厳しい冷え込みながらも良い天候に恵まれ100名を超える方々に御出席頂きました。

御来賓の皆様の中から神奈川災害ボランティアネットワーク代表吉村恭二様と神奈川県警第一交通機動隊白バイ隊指導員田嶋誠一様から御挨拶を頂戴致しました。特にバイクをつかった防災ボランティアとして今後の活動に大いに期待するという言葉頂きました。



またJRB代表、内田宏康様の挨拶では

- ・最近のJRB本部の活動
- ・体制づくりやメンバーの意識向上
- ・団体の活動力強化とメンバーひとりひとりの自覚の必要性

を強調され、より信頼のある団体へのステップアップをしてほしいとまとめられました。



さて神奈川R Bの分科会紹介の中で救急救命を広めるためのデモを日本赤十字社横浜奉仕団田島様の御協力のもと行いました。全身三角巾で覆われる様子は注目的でした。

設立総会議事では、規約案、役員選出、年間計画案、予算案等、審議事項の全てが承認されました。最後に神奈川R B役員、各リーダーをご紹介します。(敬称略)

役員

神奈川R B代表: 山田泰

神奈川R B副代表: 中島信義 谷内太一、入佐俊明、井上哲也

会計監査: 岩瀬雅裕、松井嘉夫、事務局長: 原俊介

分科会リーダー

震災時活動研究分科会: 中島信義、情報通信分科会: 小林大輔

バイク分科会: 太田真幸、救急救命分科会: 石井路香

地域リーダー

神奈川北部: 岩崎雅弥、神奈川東部: 坂本篤哉

神奈川南部: 伊藤浩章、神奈川西部: 永山充

1/10 設立総会記念講演会報告



設立総会の行われた1月10日の午後1時より、大正製薬大阪支店、青木秀公様に「バイク、情報、ボランティア」と題して講演して頂きました。青木様は先の阪神淡路大震災で、企業ボランティアのバイク

隊長として被災現場で活動され、特に企業の得意先に対する支援活動をされてきました。現地入りしてから2ヶ月にわたり救援から復旧支援を目的に体験され、その活動の中で見た事、体験した事についてお話頂きました。内容としては

- ・発災時の行動(家族と会社関連の安否確認)
- ・救援先(阪神地区の取引先薬局店)への活動体制作り
- ・被災現場へのアプローチ(ベース基地、前線基地設置)
- ・バイク隊の立ち上げ(バイクの入手、隊員選出、管理)
- ・現場情報の収集と後方支援基地への情報伝令
- ・物資搬送の問題点、バイク必携物(キャリアなど)

をキーワードにして、被災地の道路事情や、日々厳しくなる交通規制の中での活動の困難さ、長期にわたる活動によりボランティアの側が参ってしまう現実から夜は活動せずに確実に活動拠点に戻り、疲れをとる体制をとったといった話がありました。



青木様からのお話は1時間ほどで終わり、引き続き、参加者からの質問コーナーに移りました。特に自分達の活動の中で疑問に思っていた部分や被災地での現状を聞くべく様々な質問が飛び交っていました。

意見交換の中で話した話題としては

- ・バイクの機動力とその限界
- ・会社側の体制
- ・被災地での活動拠点について
- ・被災地でケガなどをした場合の対処は？
- ・無理せず、長期間に渡り活動できる心構え
- ・活動の指揮系統の統一について

などがありました。

今回の講演会では、青木様の体験談が1時間、そのあとの意見交換が1時間というアレンジで、できるだけ参加していただいた方に積極的に疑問点や被災地での状況など知りたい部分をぶつけてもらおうというスタイルにしました。今回の講演会を通じて被災地での活動の困難さや、必要となる知識、技術、考えなどが少し見えてきたように思いました。さらに今後とも現地で実際に活動した方や震災を体験された方の講演や勉強会を通じて個人個人の震災に対して考える機会をもってもらえたらと思います。

1月の各イベント参加レポート

1/10～24 防災ギャザリング'99 from かながわ

1999年1月10日から24日の間、かながわ県民活動サポートセンターを中心に県内各地で防災ギャザリング'99 from かながわが行われました。

かながわ県民活動サポートセンターでは、各ボランティアによる展示やシンポジウム、講演会、勉強会、体験コーナーなど防災に関する催し物が目白押しでした。神奈川R.B.設立総会も、この防災ギャザリングの行事の一つとして取り上げていただきました。以下に神奈川R.B.メンバーによる主なイベントの参加レポートを掲載します。

1/16 直下型地震図上シミュレーション訓練

報告者：山本泰彦

防災ギャザリングのイベントとして、地図上で地震発生時から時間を追いつながりながら被害の具体的な想定や情報収集と発信、救援体制、ボランティアの受け入れ、行政など関係機関との関わり、事前対策などについて考えるシミュレーションが行われ、防災ボランティア関連の方を中心に15名ほどが参加しました。以下にその概要をまとめます。

想定地震

発生日時：1999年1月18日午後6時

震央：横浜・川崎市境

マグニチュード7、震源の深さ：30km

風速毎秒1～4m、北の風

天候：晴れ

この想定地震に対して、A：被災地、B：県央、C：県西部地域の3つに分かれて各地での被害想定、活動の方針、情報収集などを考え、それぞれの議論のまとめを最後に発表しました。議論の結果として

A：被災地での活動計画策定

- ・1日目：身の回りの安全を確保した上で情報収集。各避難所、活動拠点に状況報告。しかしスタッフ自身も拠点にそろうまで時間が必要。徐々に集まってきた情報の整理を小人数ながら開始。防災無線等で活動拠点や行政とのコンタクトを試みる。
- ・2日目：県央など被災地以外への応援要請。電話が不通の場合、バイクを使って情報伝達。避難所や公園等の状況を報告。
- ・3日目以降：殺到するボランティア希望者の受入体制を各活動拠点とする。

B：県央での活動計画策定

- ・1日目：被害状況確認。救援物資の受け入れ開始。保管場所確保。
- ・2日目：活動拠点設置。通信手段の確保。被災地近辺の情報収集。
- ・3日目以降：支援活動。現地入り。

C：県西部地域

- ・1日目：他府県からの救援活動前線基地としての体制作り。情報収集。ボランティア登録受入体制作り。
- ・2日目：避難所の位置等の情報収集。現地入り準備。
- ・3日目以降：ボランティアや救援スタッフの派遣。物資の輸送。被災地での活動とバックアップ。

という感じにまとめられました。

最後に神奈川県防災課の杉原様より県としての体制、ボランティア受

け入れに対する考え方、サポートセンターや現在活動している防災ボランティアに期待するものなどを挙げていただき、今後さらに議論していくための問題提起もされました。このような機会は今後も積極的に行っていければ良いと思っています。

1/17 川崎災害ボランティアネットワーク災害訓練報告

報告者：坂本篤哉、小林大輔



1月17日に川崎災害ボランティアネットワーク主催の野外防災訓練が行われました。神奈川R Bからは神奈川東部地域のメンバーを中心に9名が参加しました。

この訓練では仮設トイレ組立てや炊出し、防災倉庫見学など盛りだくさんの内容でした。今回、神奈川R Bとしては昨年の横須賀防災キャンプ、JRB全国大会記念イベントに続き、物資搬送訓練を行いました。物資搬送訓練の感想としては

よかった点

・同時期に別の場所(大和)でそれぞれ神奈川R Bメンバーが活動出来た事が収穫だと思う。今後、各地で行われるイベントに対して平行して神奈川R Bメンバーが対応出来る、神奈川R B地域別活動への雛形になった。

課題

・会場には神奈川R Bというよりも「オートバイ」に関心を寄せる参加者が多数いらした。神奈川R Bをアピールする際に「オートバイって何?」というようなモノも用意すると、現場で役立つのでは。
・まだまだ神奈川R Bのアピールが足りないせいかな主催団体が我々を生かす出来ないのでは。逆に神奈川R Bはこういう活動が出来るといったモノを先方に提案する必要があると思う。これは実際の災害現場でも同様だと思う。

1/23 シンポジウム報告

報告者：山本泰彦

1月23日 かながわ県民活動サポートセンター15階で

「シンポジウム・災害ボランティアの交流とネットワークをめざして」が行われました。

神奈川災害ボランティアネットワーク代表吉村恭二さんの挨拶のあと、司会の地域防災ボランティア横浜宇田川規夫さんのアレンジで次に示す5名のパネラーの方々を中心に議論が進められました。(敬称略)

- 発言者： 1、上原泰男(東京災害ボランティアネットワーク)
2、村井雅清(被災地NGO協働センター)
3、栗田暢之(震災から学ぶボランティアネットワーク)
4、谷内太一(神奈川レスキューサポートバイクネットワーク)
5、植山利昭(神奈川災害ボランティアネットワーク副代表)

まずは各団体それぞれの立場での活動経過について説明があり、そのあとディスカッションに進みました。このシンポジウムの中での話題としては次のようなものがありました。

阪神淡路大震災からこれまでの活動で

・被災者は避難所から仮設住宅に移るときにコミュニティが壊され、また仮設から災害復興住宅にうつるときにコミュニティが壊されてしまう。コミュニティの崩壊というものは災害復興の中では大問題。
・緊急初動期において、長期的な復興まで視野に入れた施策が必要。
・学生や若い人がネットワークに入ってなにができるのか。
・ボランティアは役割分担が重要。役割はいくらでもある。専門の知識をもっているのであればそれを活かす活動というものもある。
・自分が役に立つ時期はあるし、それを自分で探していく姿勢が必要。
・防災ボランティアネットワークはなんらかのボランティア活動をしている人が集まっていることが多いのでそれぞれの活動を越えた「顔の見える」関係を作っている。

最後に防災ネットワークプラン井上さんから今回の防災ギャザリング全般の取り組みに対するコメントを頂きました。

・今震災が起こったとき、今ある力でどこまでできるか。図上シミュレーションでは、震災が起きたときどうなるかというイメージがまだ弱い印象を受けた。
・災害に対する先入観があるのではないかと。
・これでいいのかと不安を考えながらの活動かもしれないが、自信をもって活動してほしい。

1/24 泉区災害ボランティアシミュレーション

報告者：谷内太一

1月24日、小雨の降る中、横浜市立いずみ野中学校において、ボランティアとして、一般市民として両方の立場から参加できる泉区災害ボランティアシミュレーションが行われました。

訓練内容としては、情報伝達訓練、ボランティアコーディネート訓練、物資輸送訓練、地域住民・障害者・高齢者の避難訓練、外国籍区民への対応等がありました。今回は神奈川R Bとしてではなく、一防災ボランティア希望者と言う立場で登録し、参加しました。

物資輸送訓練では、リヤカー、徒歩、バイクの3種類の方法により、幾つかの福祉施設に備蓄食糧を輸送する訓練がありました。

ちなみにバイクでの輸送グループは、

- ・スクーター・・・お母さん2名：ディオ、リード90
・オフロード・・・男性3名(RB:2名)：XR400、KLX250、セロー
・オンロード・・・男性1名：刀1100

で、お粥(大)お粥(小)水を5km程度の離れた福祉施設まで運ぶ搬送訓練を行いました。感想としては

・たかだか10余名の輸送隊を操るだけでも混乱していることから分担コーディネートの訓練(その場での指示系統の統一する訓練)の重要性がよく解った。
・出発するときに、受け取り施設の事は確認していたが、受取人の名前まで確認していなかったため、受取人がいない中でどうして良いのか分からなかった。
・神奈川R Bとして集まってくるバイク隊のコーディネーターができるような訓練を日頃から行い、逆に「提案」できるような活動が必要だと思う。

1/23~24 フリーマーケット

報告者: 内藤浩司

1月23日、24日の両日、かながわ県民サポートセンター1階と正面玄関を利用して、フリーマーケットが行われました。

神奈川RB outlet店の売上は90949円に達しました。出品していただいた方、お買い上げ頂いた方、店番をしていた方、そして今回、この場所を提供してくださいました神奈川県民センター、防災ギャザリング実行委員会の方々、本当にありがとうございました。出品者への返却分や準備にかかった経費などをのぞく、72629円を1999年度神奈川RB活動資金として活用させて頂きたいと思っております。

1/16~17 大和市民体験フェア(災害訓練) 参加報告

報告者: 石井路香



1月16日(土)午後から17日の朝まで、大和市・引地台中学校(校庭・体育館)にて、災害シミュレーション特別企画「避難所・命と絆を考える-」'99 来来て・見て・聴いて・泊まって市民体験フェアが行われました。

第一部 (参加者200名程度)

スタンプラリー(会場を各フロアに分け各所を体験しスタンプをもらう)形式で次の各コーナーをまわって体験するというものでした。

命を守る

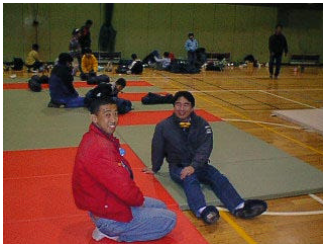
- ・浄化装置作り、炊飯器無しでの炊飯、救護法講習など
- ・災害を知る・体感震度7、起震車体験(大和消防署)

絆を結ぶ

- ・介護体験(車椅子) テント設営、簡易トイレ組立て設営体験など

神奈川RBでは、テントの設営のお手伝いをしました。

第二部 避難所生活を体験する(参加者60名程度)



防災備蓄庫見学(引地台公園内)のあと、体育館へ移動。参加者は体育館の中で畳の上に寝袋のみで寝ることを体験しました。これが、本当の避難所でもっと大勢の方がいたらきっと眠れないだろうなあというのが実感でした。

感想

2日目は朝5時半に起床し、5時46分、あの阪神淡路大震災のあった時刻から1分間、黙祷をしました。今、あの惨事が起きたら私には何が出来るだろう、何を残せるだろう、1分がとて永く感じました。

その後、朝食をとり後片付けを済ませ解散となりました。

感想

- ・実際の避難所だったら、もっと人数が多く、皆精神的にもはりつめていた状態なのではないか。
- ・お年寄りや病人等の方のケアについてはなにも訓練には盛り込まれていなかったため、今後はそのあたりを想定した訓練も必要。
- ・何よりも、人とのふれあいが出来た事が収穫。このような場が今後も沢山あるといいと思う。

いり2のコラムVol.1

いり2(神奈川RB 副代表 入佐俊明)

「震災から4年」

いり2は今回も1月17日を神戸市長田区にある鷹取救援基地で過ごした。あの、悲惨な阪神淡路大震災からもう4年も経った。多くの人にとっては、遠い昔の出来事のように頭の片隅に追いやられているだろう。そしてそれはマスコミに関しても言える。今年は何故かマスコミが多く、いろいろ付きまわられてインタビューされたが、

現場で取材している記者も苦しんでいた。

最近では震災の記事を書いても全国版には載る事は少なく、よほど大きい事がない限りは全国版として取り上げてくれないのだそうだ。

神戸もまだまだ大変だ。

テレビやマスコミで流れている所はまだ良い方だ。もっと大変なところや、手も付けられていない場所がある。

でも、そういう所にカメラを向けて、マスコミを通じてみんなに知ってもらえばそれで良いのかというと、どうもそうではないらしい。

それは観光目的で神戸に多くの人に来てもらいお金を落としてくれないうと、神戸の中のいろんな産業、人々の自立、復興がなかなか進まないという背景があるから、そんなマイナスイメージを与えるところばかり流すわけにもいかないという事情もある。

まだまだ復興というには遠い。

仮設がなくなったからといって復興ではない。

元の場所に戻って、震災前のように生活が出来てこそ、本当の復興と呼べるのではないだろうか？

いり2のコラムVol.2予告

「ボランティアの基地」

乞う御期待

創刊にあたり

この会報は神奈川RB会員、さらに関係機関に対し、神奈川RBの活動報告を兼ねて発行するものです。震災時における救援活動支援ボランティアとしての活動力向上とともにRBの活動を大きく広げていくためにも皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

お問い合わせは

神奈川RB事務局

郵送先: 〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンター・レターケース No.81

Tel: 0462 47 7884(事務局加藤宅)

Fax: 0462 47 9539(事務局加藤宅)

URL: <http://cools.com/kanagawarb> E-mail: 52379663@people.or.jp

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川RB会報担当 松井嘉夫、山本泰彦